

再評価実施箇所 位置図

再評価件数：9件

番号	箇所名	重点
3	(一)安間川	
4	(二)都田川(新川工区)	
5	(一)一雲濟川	
6	(二)巴川(第 期計画)	
7	清水西海岸	
8	吉佐美多々戸	
9	八幡野向町	
10	和田	
11	上西之谷	

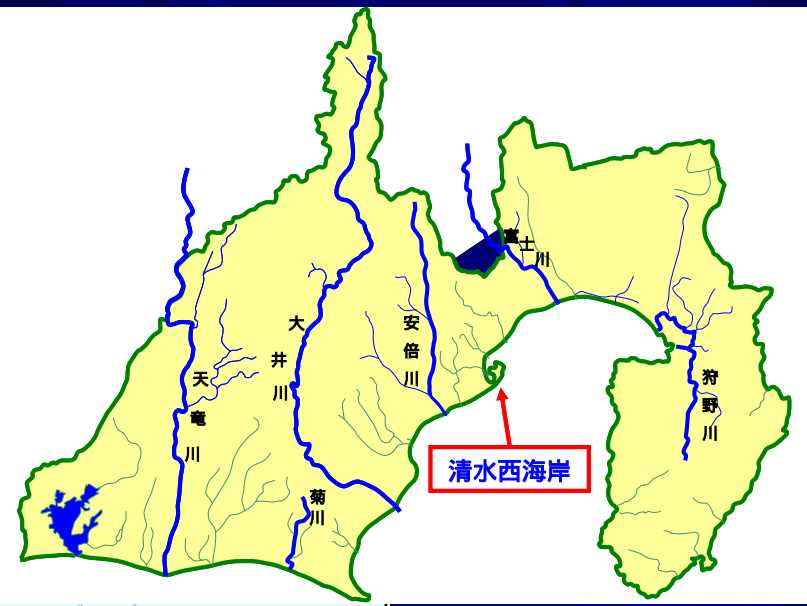


平成26年度 公共事業再評価

高潮対策事業 清水西海岸

河川砂防局 河川海岸整備課

清水西海岸位置図



海岸延長9,788m
高潮対策事業区間7,600m



H25.12撮影

※地形図: 国土地理院発行(H9.7.1)数値地図200,000(地図画像)日本-II

清水西海岸の侵食状況

昭和56年(1981)



平成元年(1989)

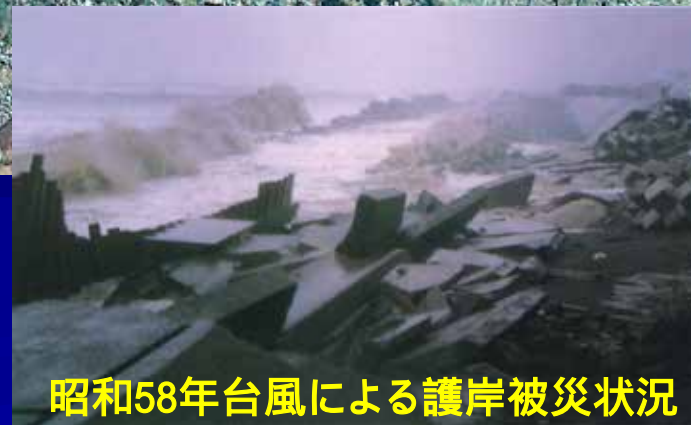


羽衣の松ピンチ
ひん死の上に海岸浸食

市長も 万全の対策を強調

23年後には根元まで波

清水三保



昭和58年台風による護岸被災状況

事業概要 - 1

高潮対策事業区間 L=7,600m

消波堤区間

ヘッドランド区間

離岸堤区間

清水海岸L=9,788m



飛行場前面の堆積域からの
サンドリサイクル養浜

三保半島

清水西海岸 高潮対策事業概要

事業期間：平成元年～平成32年(施設整備完了,平成24～32年は養浜のみ)
ヘッドランド区間に安倍川供給土砂による砂浜回復域の到達が見込まれるまでの期間
(砂浜の回復状況に応じて見直しを図る)

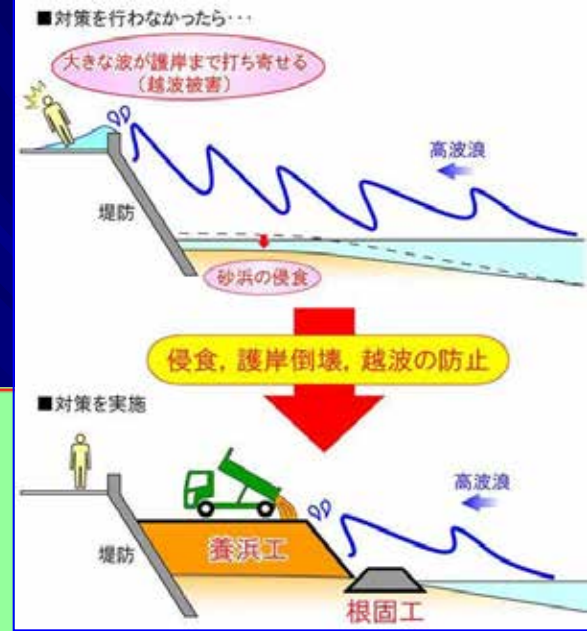
対策内容：	離岸堤型ヘッドランド	5群 (駒越・折戸・三保)うち高潮対策事業5群
	L字突堤	1基 (三保)うち高潮対策事業1基
	離岸堤	19基 (蛇塚・増)うち高潮対策事業12基
	消波堤	5基 (駒越・三保)うち高潮対策事業5基
	根固工	7基 (駒越・折戸・三保)うち高潮対策事業6基
	サンドバイパス養浜	8万m ³ /年 (H12～25実績:計109万m ³) (H26～32予定:計56万m ³)
	サンドリサイクル養浜	3万m ³ /年 (H19～25実績:計22万m ³) (H26～32予定:計21万m ³)

残事業(H26～32年度) : 養浜 11万m³ × 7年 = 77万m³
残事業費(H26～32年度) : 21.9億円

事業概要 - 2

H12年から、サンドバイパスとサンドリサイクルによる養浜を実施

- ・ 養浜により、砂浜の保全と護岸倒壊および越波被害の防止を図る
- ・ サンドバイパスは土砂供給源である安倍川から海岸に砂を運び込む
- ・ サンドリサイクルは流砂系の終端の三保灯台付近から、土砂を手前に戻す



対策の効果

1994 (H6) 年



駒越・折戸地先

1994 (H6) 年 侵食状況



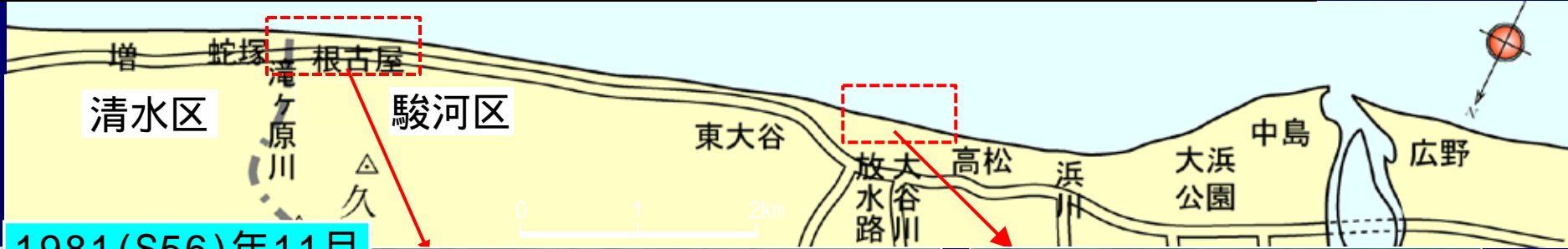
駒越・折戸地先

2013 (H25) 年



駒越・折戸地先

・安倍川での砂利採取規制後、静岡海岸の安倍川河口側から砂浜が回復



1981 (S56) 年11月



2013 (H25) 年12月



事業を巡る社会情勢等の変化

安倍川サンドバイパス養浜の増量(年間6万m³から8万m³)と
サンドリサイクル養浜(年間3万m³)を行うことを決定

現在清水区境まで到達している安倍川土砂による砂浜の自然回復域が、駒越地先に到達するまでの間継続するよう事業期間の変更(平成28年度から平成32年度に延伸)



清水海岸侵食対策検討委員会
構成: 海岸有識者、行政、地域住民等



○三保松原が富士山の世界文化遺産の構成資産に登録され観光客が増大するとともに、海岸侵食による砂浜の減少を食い止める機運がより高まった。



三保松原への観光客の増加
(三保地先)

三保松原白砂青松保全技術会議
構成: 海岸・景観有識者、行政



三保松原の景観改善を考えるシポジウム



景観改善の方針

1

将来的に構造物に頼らない海岸を実現するため、常に土砂供給の連続性を確保するよう努める。

2

砂浜が自然回復するまでの間、景観的に配慮した最低限の施設により、砂浜を保全する。

(1) 短期対策として、1号、2号消波堤をL型突堤に置き換える

- ・ サンドリサイクル量は5万m³を基本とする。
- ・ 突堤長さを含めた施設諸元等については、詳細検討により決定する。
- ・ 初期養浜等により景観改善目標を早期に達成できるよう努める。

(2) 中期対策として、3号、4号消波堤をL型突堤に置き換える

- ・ 対策の要否を含め、詳細は短期対策完了後に改めて検討する。

3

海浜変形状況などのモニタリング結果を踏まえた順応的な見直しにより、常に計画の最適化に努める。

- ・ 養浜量や施設構造などを、海浜変形状況に応じて随時見直す。

4

目指す海岸の姿を実現するため、関係者・関係機関との連携を進める。

5

文化財を構成する周辺部と一体的となって、三保松原の文化財的な価値向上に努める。

(1) 短期対策として、1号、2号消波堤をL型突堤に置き換える

現況



1号消波堤

L型突堤 20年後



費用便益分析結果

便益 (B) 侵食防止便益 389百万円 + 浸水防護便益 15,375百万円 = 15,765百万円
 費用 (C) 残事業費 1,952百万円 + 維持管理費 986百万円 = 2,938百万円

費用便益比 (B / C)

費用対効果 (B / C) = 5.37

平成26年度換算価値
 文献 (マニュアル)
 (「治水経済調査マニュアル (案)」国土交通省河川局 平成17年4月)
 (「海岸事業の費用便益分析指針 (改訂版)」農林水産省・国土交通省 平成16年6月)



対応方針

- ・事業は順調に進捗し、費用対効果も認められる
- ・海岸侵食及び越波浸水被害の軽減を図るため
事業継続とする